

試験研究成果普及情報

部門	漁場環境・生産基盤	対象	普及
課題名：千葉県九十九里浜産サトウガイの価格形成要因			
<p>[要約]</p> <p>十数年振りに 2000 年から本格的な漁獲が再開された九十九里海域のサトウガイは、主に東京都中央卸売市場へ出荷され、産地価格は東京都中央卸売市場での赤貝（アカガイ、サトウガイ等）の卸売数量及びサトウガイの品質に影響される。このため、漁獲収入の増加には単価動向に合わせた漁獲及び漁獲物の品質向上が必要である。</p>			
キーワード：九十九里、サトウガイ、流通、価格形成			
実施機関名	主 査	水産総合研究センター 生産技術研究室	
	協力機関	水産総合研究センター資源研究室、銚子水産事務所、勝浦水産事務所、漁業資源課	
実施期間	2004 年度～2005 年度		

[目的及び背景]

九十九里海域貝桁網漁業の主要な漁獲対象の一つであり、寿司や刺身として利用されるサトウガイは、資源減少のため 1984 年以降はほとんど漁獲されなかったが、資源の回復により 2000 年から本格的な漁獲が再開された。しかし、単価は従前の半分程度と低いことから、漁獲収入の向上を図るために、サトウガイの流通経路及び価格形成要因を調査し、その対策を検討した。

[成果内容]

1 サトウガイの流通経路

サトウガイは九十九里海域の 3 漁港に水揚され、産地仲買業者は割れ貝等を選別した後、水槽で数日間蓄養し、東京都中央卸売市場を主体に、一部は県内の料理店、スーパー、魚屋等に出荷される。

2 サトウガイの価格形成要因

- ① サトウガイは肉の色調が薄いことから、赤貝市場の主体を占めるアカガイより商品価値が低い。
- ② サトウガイの単価は、赤貝輸入量に連動した東京中央卸売市場の赤貝卸売数量との間に負の相関関係があり(図 1)、6～9 月に高く、その他の時期は低い周年変化を示す。
- ③ 月平均単価の高い 6～9 月には 1 日当たりの水揚量が約 4 トンを、その他の時期には約 2 トンを越えると、単価は各々の平均単価を下回り、高値は期待できない(図 2)。
- ④ 産地価格は、漁獲時に発生する貝の破損に起因する流通段階での減耗分が見込まれている。

3 漁獲収入の増加策

以上のことから、漁獲収入の増加には単価動向に合わせた漁獲時期や漁獲量による計画生産及び操業方法の改善による漁獲物の品質向上が必要である。

[留意事項]

価格形成要因は流動的であることから、サトウガイの計画生産に当たっては、最新の詳しい流通情報を参考に実施する必要がある。

[普及対象地域]

九十九里地域，貝桁網漁業

[行政上の措置]

[普及状況]

対象漁業者団体が 2005 年度に策定する「九十九里地域貝類資源管理指針」に反映される。

[成果の概要]

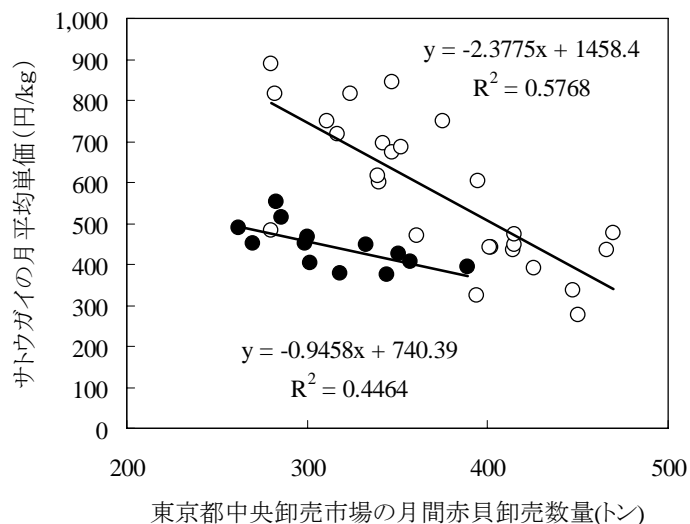


図1 東京都中央卸売市場の赤貝卸売数量とサトウガイ単価(月間水揚量5トン以上)との関係
○2001/1-2004/7, ●2004/8-2005/10

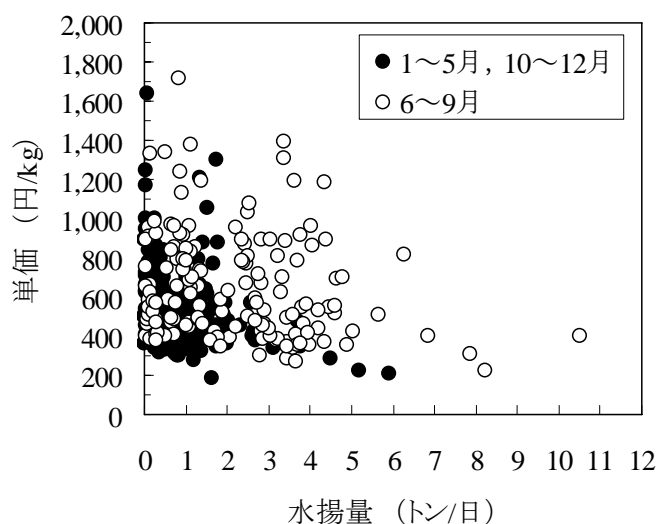


図2 サトウガイの日間水揚量と単価(2001/1-2004/9)

[発表及び関連文献]

千葉県九十九里浜産サトウガイの価格形成要因，千葉県水産総合研究センター研究報告，第1号，2006年

[その他]

多元的資源管理型漁業促進対策事業